

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



Photo: "Jam Sessions: The Pres Blows" & "The Bill Clinton Collection"

《ジャズ大統領》

今回はアメリカ合衆国大統領の話。昨年12月19日に行われた選挙人投票で正式に決定し、今年1月20日に第45代アメリカ合衆国大統領に就任したドナルド・トランプ。アメリカでは就任後の現在も各地でデモが行われるなど、今後の動向に注目が集まっているが、今回はトランプ大統領について書くつもりはない。

自分がニューヨークで暮らしていた4年間に就任していた大統領はビル・クリントン。パパ・ブッシュとジョージ・W・ブッシュの間に挟まれる形で、第42代アメリカ合衆国大統領として1993年から2001年までの2期8年間務めた。

モニカ・ルインスキー事件等、最終的にスキャンダルのイメージが残ってしまい、挙句の果てには“ヒラリー・クリントンの夫”的なイメージに成り下がっている印象は否めないが、就任直後の1993年2月26日にニューヨークで世界貿易センター爆破事件が起きたものの、ブッシュ親子大統領就任時に比べると比較的穏やかで、ニューヨークに住んでいる時にも危機的な事件や事故にも直面せず、ニューヨークの街もいたって平穏だったと思う。

日本映画で筒井康隆の同名短編を岡本喜八監督が映画化して1986年に公開された『ジャズ大名』という作品があるが、ビル・クリントンこそ、正に“ジャズ大統領”と呼べる大統領で、個人的にはかなり親しみを感じていた。クリントンが1992年当時アーカンソー州知事だった時に『アルセニョ・ホール・ショー』に出演して、自慢のサクスを吹きまくり、有権者が親近感を持ち、それが後の大統領選挙での勝利へと繋がったと言われている。日本ではあまり知られていないが、大統領時代の1994年には自身の名義で3曲入りのジャズ・アルバム『Jam Sessions: The Pres Blows』をリリースし、その後、クリントンが愛聴するジャズの楽曲を自ら厳選したコンピレーション・アルバム『The Bill Clinton Collection - Selections from the Clinton Music Room』もリリースされている。

『Jam Sessions: The Pres Blows』では、「Uvod」「Summertime」「My Funny Valentine」の3曲が収録されており、真のジャズ・サクソ奏者のレベルではないものの、なかなかの腕前を披露しており、『The Bill Clinton Collection - Selections from the Clinton Music Room』では、マイルス・デイヴィスの「My Funny Valentine」、ニーナ・シモンの「I wish I knew How It would Feel To Be Free」、ジョン・コルトレーン&ジョニー・ハートマンの「My One and Only Love」、デヴィッド・サンボーンの「Harlem Nocturne」等、13曲を厳選し、なかなか渋い選曲となっていた。また、当時ニューヨークで活躍していたジャズ・ベーシストの中村健吾さんは、クリントン主催のプレジデント・サミットで演奏するという名誉を得ている。

ジャズ・ファンとしては、トランプ大統領がウッドベースでスイング感溢れるウォーキング・ベースでも披露してくれれば、少しは親しみも感じるのかもしれないが、自分にとっては“ジャズ大統領”＝クリントンが一番思い出深い大統領だ。